



～地域環境の保全を目指して～

令和4年1月

栃木環境レポート 第3号

循環型社会の形成を目指して あと少しだけ みんなでできることを

私たちにできる3つのR



REVEL (非常に喜ぶ) と、なりますよう願います。

私たちの豊かな生活は、限りある資源の大量消費によりもたらされていますが、その半面大量の廃棄物が発生し、様々な問題を引き起こしています。また再利用、再資源化できないゴミは「最終処分場」へ運ばれますが最終処分場にも限りがあります。

これらの問題を解決するには、1人ひとりがゴミを減らすことが大切です。環境への負担が少ない循環型の社会をつかっていくために、発生抑制(リデュース) 再利用(リユース) 再生利用(リサイクル)の3つの「R」を心がけて生活することが重要になってきます。

・リデュースのポイント

買い物にはマイバッグを持参し、レジ袋やお箸、不要なおしぼりをもらわない。生ごみは捨てる前に水気を絞って切るようにしましょう。

・リユースのポイント

シャンプーや洗剤のボトルなど詰め替えが可能なものを購入利用する。

・リサイクルのポイント

資源ごみはきちんと分別して指定日に出すようにしましょう。

編集後記

早いもので令和3年も終わりました。令和4年となり、また令和4年となり、栃木環境オフィスの活動も思うようにいかず、ご賛同いただいた皆様、ご協力いただいた皆様、ご理解とご協力を頂いて、皆様の期待にお応えできません。是非、ご期待ください。

12/5 新大平下駅周辺にて ENJOY!ゴミ拾い大会 開催!



どんなもんだあ!



駅前公園に本部設置

昨年12月5日、日曜日にゴミ拾い大会を開催、85名の方の参加をいただき盛況のうち無事終了いたしました。ご協賛・ご参加いただいた皆様、心より感謝申し上げます。



家族総出で



集めたゴミの山!



サプライズ! 大川秀子市長から表彰状!



仲よし父娘



みんなどこ?



新婚だそうです



不燃ゴミの部優勝 日冷工業チーム



範囲が広いよ～



4部門制覇! 大平おやじの会連合会の各チームのみなさん



発行 「まもる」「そだてる」「つなぐ」

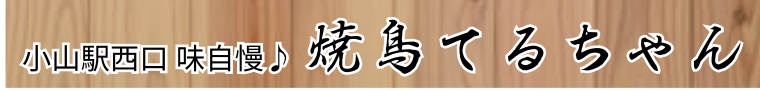
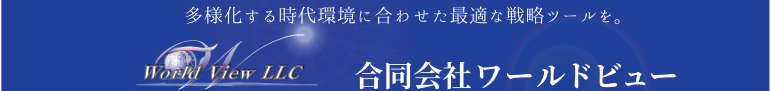
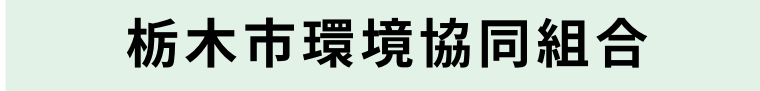
栃木環境オフィス 栃木市大平町富田330-6 代表 広瀬 義明

HP開始! 栃木環境オフィス



ホームページ開設しました! 環境情報やイベント等の掲載。皆さまからのご意見等、有効にご利用いただければ幸いです。まずは覗いてみてくださいね。

環境保全事業年間協賛会員の皆様(敬称略)ご協賛、ありがとうございます。



COP26 (第26回気候変動枠組条約締結国会議) 特集

環境保全に取り組む事業所をご紹介します!



Q COP「Conference of the Parties」とは何のこと?

地球温暖化や気候変動に対して、世界が一致団結して取り組む必要がある。そんな認識から、1992年に国連で気候変動枠組条約 (UNFCCC) が採択され、1994年に発効します。これに基づいて、1995年からほぼ毎年開かれているのが「国連気候変動枠組条約締結国会議 (COP)」です。

脱炭素社会実現に向けた世界の動きをまとめてみました。

COPの変遷と関連する動き	
1992年	国連気候変動枠組条約(UNFCCC)採択(1994年発効)
1995年	COP1がベルリンで開催
1997年	COP3が京都で開催 「京都議定書」採択(2005年発効)
2001年	米国が京都議定書から離脱
2015年	COP21がパリで開催 「パリ協定」採択(2016年発効)
2020年	米国がパリ協定から離脱
2021年	米国がパリ協定に復帰 IPCCが第6次報告書(WG1)を発表 COP26がグラスゴーで開催(11月)

1997年

京都議定書

- 国際的な数値目標が初めて定められた
- 先進国に温室効果ガスの削減義務付け(法的拘束力あり)
- 先進国全体で、2008年～12年に少なくとも5%削減(1990年比)

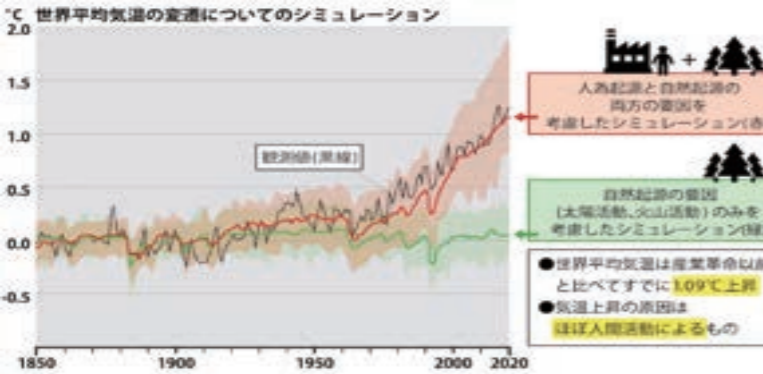
2015年

パリ協定

- 先進国だけでなくすべての国と地域が対象
- 「2℃目標」「1.5℃目標」を設定
- 削減目標は「国が決定する貢献(NDC)」として各国が自ら設定する
- 各国は5年ごとに自国の削減目標の更新を行う



国連組織IPCC(気候変動に関する政府間パネル)が発表した報告書資料



地球温暖化の進捗は、温室効果ガスの排出量にほぼ比例すると考えられています。そのため、地球温暖化や気候変動を食い止めるためには、温室効果ガスの排出をいかに減らしていくかが重要となります。COPは、「大気中の温室効果ガスの濃度を安定化すること」を目標として、そのために必要な国際的取り決めを行う国際会議なのです。COP開催において大きな指標となっているのが、1997年のCOP3で採択された「**京都議定書**」と、2015年のCOP21で採択された「**パリ協定**」です。COP3で採択された京都議定書は、温室効果ガス排出量の削減について国際的な数値目標を初めて定めた、画期的なものでしたが、京都議定書は2020年までの枠組みです。京都議定書に続く2020年以降の新しい枠組みでは、途上国もふくめ世界全体で取り組む体制をつくることが不可欠でした。世界全体の長期目標として、「世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2度より十分低く保つとともに、1.5度に抑える努力を追求する」ことが示されました。また、具体的な削減目標は、各国自らが「国が決定する貢献」として設定し、必要な対策を講じる仕組みです。削減目標は5年ごとに更新します。目標の設定と行動、見直しを5年ごとに行いながら、より踏み込んだ排出削減の取り組みをしていくことが求められています。先進国だけでなく、気候変動枠組条約に加盟している196カ国すべてが温室効果ガスを削減するために行動すべきであると定められたパリ協定は、地球温暖化や気候変動の対策における歴史的な転換点となりました。2021年8月、COP26の開催を目前に控えた時期に発表された「IPCCの報告書」が、大きな反響を呼びました。人間活動による地球温暖化は「もはや疑う余地はない」と、その関連を初めて断定したのです。「地球温暖化は人間活動によって引き起こされているとは断定できない」という言い訳をして、対策を滞らせることはできなくなりました。しかし、途上国の温室効果ガス排出量は経済発展に伴って増加しており、地球温暖化対策において重要度が高まっています。とはいえ、途上国の取り組みは国によって温度差があり、先進国の支援を期待する部分も大きいことも事実です。企業にも一層の取り組みが求められていくことは間違いありません。国や企業、そして各個人がどのような行動をとっていくか、未来の地球環境に直結する選択が迫られています。

日本の取組は?



COP26首脳級会合演説での岸田総理

日本の脱炭素戦略とパリ協定は密接に結びついています。パリ協定において日本を含む締約国は、「世界の平均気温上昇を2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力を追求する」ために「今世紀後半に人為的な温室効果ガスの排出量の実質ゼロを達成する」ことに合意しました。菅首相が2020年10月の所信表明にて「2050年温室効果ガスの排出実質ゼロ」を宣言したことや、日本の「2030年度に2013年度比で46%削減し、50%の高みに向けて挑戦する」という目標は、パリ協定の目標を受けて設定されました。今回のCOP26においても、現地滞在8時間という総理の出席でも重要性が理解できるかと思えます。演説では100億ドルの途上国支援が公表されています。



事業所情報 栃木市平柳町1丁目11-11 TEL 0282-24-6064



四反田 善仁 社長

新栃木駅から昭和町交差点まで ゴミ0を目指して!



社屋前は毎朝当番制でお掃除 駅前通りを歩きながら拾います



社長(手前)が率先してゴミ拾い 女性の目線で厳しくチェック!

会社設立以来40年近く地域環境美化を続けてこられたという共同プロ保険事務所。現在は週に一度、社員の皆さまが交代でおこなっておられます。自社の周りだけではなく全長500mほどの通りをゴミ拾いされているそうです。お邪魔した日は小雨の降る天候でしたが、そんな中でもきれいな環境をと活動されておりました。SDGsにも積極的に取り組まれており、とちぎSDGs推進企業登録もされたそうです。

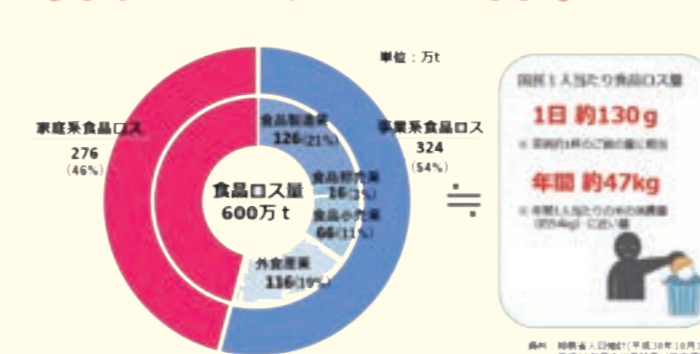
「とちぎSDGS推進企業登録制度」

県内企業のSDGSへの主体的な取り組みを推進し企業価値の向上、競争力の強化を図るための制度。

とちぎSDGS推進企業登録マーク 栃木県産業振興センターが創設。

「フードロス」みんなで取り組みませんか?

食品ロス!! 年間600万トンが廃棄処分



世界中で、年間13億トンもの食料が廃棄されています。これは全食料の30%以上に相当するとされ、現在、大きな問題となつていきます。大きな観点からすれば環境への影響も懸念されるため各国で法制化などの取り組みが進んでいます。「もったいない文化」の日本。手前取りや食べる分だけといった各家庭でのちょっとした取り組みが改善への第一歩に繋がるのではないかと考えます。



みんなでチャレンジ! 食品ロスを減らす「3きり運動」

- 料理はおいしく、「**食べきり!**」
- 食材はムダなく、「**使いきり!**」
- 生ゴミはギュッと、「**水きり!**」

まだ食べられるにもかかわらず、捨てられてしまう食べ物。全国で年間約600万トン発生し、国民1人1日あたり「茶わん」1杯分のごはんの量に相当(約132g)します。もったいないと思いませんか?



水melonのキャラクターチームでは、この運動を推進しています。

食品製造業 食品卸売業 食品小売業 外食産業

製造・流通・調理の過程
「破損品」「過剰生産」「在庫」「返品」「納品期限切れ」「売れ残り」など

調理・販売の過程
「食材廃棄」「仕込みロス」「調理くず」「食べ残り」など

一般家庭

食べ残し
食卓にのこった食品で、食べ切れずに廃棄されたもの

直接廃棄
賞味期限切れ等により使用・提供されず、手つかずのまま廃棄されたもの

過剰除去
厚くむき過ぎた野菜の皮など、不可欠部分を除去する際に過剰に除去された可食部分